

## 『新版 東洋医学概論』第1版1刷～3刷の訂正

『新版 東洋医学概論』第1版第1刷(2015年4月20日発行)～第1版第3刷(2017年3月15日発行)におきまして、以下の誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに訂正いたします。

### 『新版 東洋医学概論』第1版 第1刷～第3刷の訂正

(2017年6月30日)

頁	訂正箇所	訂正前	訂正後
178	下から2行目	①実熱が体内に存在すると、生体物質を損傷するため、気虚・血虚・精虚・陰虚が起こる。	実熱が体内に存在すると、生体物質を損傷するため、気虚・血虚・精虚・津液不足・陰虚が起こる。
207	「B. 舌色」の上から4行目	舌色は、気血の盛衰や寒熱などを反映する。	舌色は、気血の盛衰や寒熱などを反映する (図4-2)。
226	「B. 偏食と嗜好」の上から7行目	五味は酸・苦・甘・辛・鹹の5つの味で、それぞれ五臓と対応する (表4-5)。	五味は酸・苦・甘・辛・鹹の5つの味で、それぞれ五臓と対応する (表4-6)。
233	上から4行目	～五臓の状態を推察する (表4-6)。	～五臓の状態を推察する (表4-7)。
233	表の番号	表4-6 五臓と七情	表4-7 五臓と七情
233	下から3行目	～に影響を及ぼす (表4-7)。	～に影響を及ぼす (表4-8)。
234	表の番号	表4-7 五臓と五勞	表4-8 五臓と五勞
252	下から2行目	現在、難經系腹診 (図4-5) は、	現在、難經系腹診 (図4-3) は、
252	図の番号	図4-5 難經系腹診	図4-3 難經系腹診
253	上から6行目	～で紹介されている (図4-6)。	～で紹介されている (図4-4)。
253	「B. 胸脇苦満」の上から2行目	～があつて入らないものをいう (図4-6)。	～があつて入らないものをいう (図4-4)。
254	図の番号	図4-6 胸脇苦満	図4-4 胸脇苦満
254	図の番号	図4-7 小腹急結	図4-5 小腹急結
254	1行目	図4-7)。	図4-5)。
256	下から1行目	広く用いられている (図4-3)。	広く用いられている (図4-6)。
256	図の番号	図4-3 寸口脈法	図4-6 寸口脈法
258	下から3行目	～触知できるかを確認する (図4-4)。	～触知できるかを確認する (図4-7)。
259	図の番号	図4-4 脈の深さ	図4-7 脈の深さ
259	図の番号	図4-5 脈の太さ	図4-8 脈の太さ
260	「(5) 大・細」の上から2行目	～あるかを確認する (図4-5)。	～あるかを確認する (図4-8)。
261	「D. 病脈」の上から5行目	現在では主な病脈を28種としてまとめている (表4-8)。	現在では主な病脈を28種としてまとめている (表4-9)。
262	表の番号	表4-8 二十八脈の脈形と主病証	表4-9 二十八脈の脈形と主病証
263	下から1～2行目	現在では表4-9、表4-10のような配当が広く用いられている。	現在では表4-10、表4-11のような配当が広く用いられている。
264	表の番号	表4-9 六部定位と経脈	表4-10 六部定位と経脈
264	表の番号	表4-10 六部定位と臟腑	表4-11 六部定位と臟腑
264	「・三部九候診」の上から6行目	脈診部位については表4-11のとおりである。	脈診部位については表4-12のとおりである。
265	表の番号	表4-11 素間における三部九候	表4-12 素間における三部九候
266	上から7行目	一例を挙げると、図4-8のような流となる。	一例を挙げると、図4-9のような流となる。
266	図の番号	図4-8 臨床の流れ	図4-9 臨床の流れ